

ウッドリンク×米三

# 家具ブランド「木と人」展開



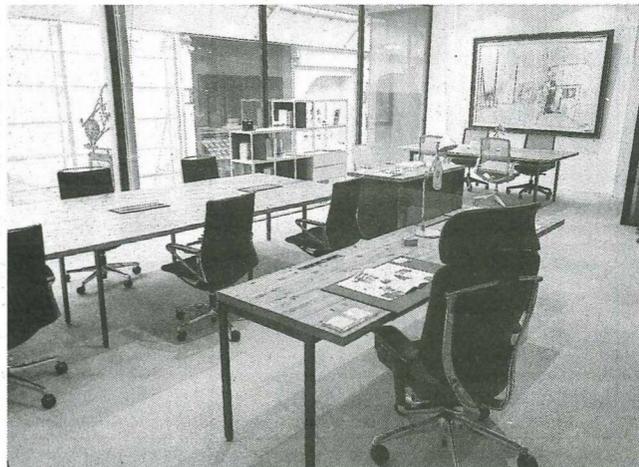
原野社長と増山常務



「Sketch Lab」の室内

## 互いの強み活かしコラボ

住宅資材・製材のウッドリンク（射水市塚原）と、家具の製作・販売を手掛ける米三（富山市新庄銀座）が2020年に立ち上げた家具ブランド「木と人」。「国産の木材と匠の技術がもたらす上質な製品を、全ての人へ」を謳い、オフィス用家具を中心に事業展開している。設立経緯や製品の特徴などについて、ウッドリンクの原野剛行社長と米三の増山武常務に聞いた。



米三「D-SQUARE」内のショールーム

設立は「弊社のスキのフリー板をもっと普及させたい」という原野社長の思いから。同社では高品質な小割材を集成加工し、最大で幅1200ミ、長さ4000ミのフリー板を製作している。長さ方向は継ぎ目がなく、幅はぎ板ながら一枚板のような美しい仕上がりが。北陸では内装材、建材として使用されていたが、全国に販路を広げたいとの意向があった。そこで北陸最大規模の家具販売店を運営する米三の増山常務に「建築以外に活用できないか」と相談。増山常務は「フリー板をどのように活用していけばいいのか、ずいぶん試行錯誤した」と振り返る。国が推し進める非住宅建築物の木造化・木質化の流れもあり、原野社長の「新しい市場を開発したい」との考えのもと、オフィス用家具に着目。素材を用意できるウッドリンクと家具販売のノウハウ

販売のノウハウ

ハウを持つ米三、それぞれの強みを活かしたコラボが誕生した。製品ラインナップはワークデスクやシェルフラック、パーテーションなど。それぞれ連結と分解を前提とした構造で、オフィス空間に合わせたレイアウトが可能だ。富山県産スギ材に、富山県内の鉄工所とも連携して製作されるオフィス用家具は「メイドイン富山」とも言える。原野社長は「木の素材感やスキの調湿、癒やし、温もりといった効果が、仕事中にも感じられる」とメリットを挙げる。増山常務は「企業のSDGsがトレンド。働き方改革が進められる中、オフィスの木質化はまだまだ伸びる分野」と見ている。これまでに富山市が富山駅前「CIC」3階に整備した

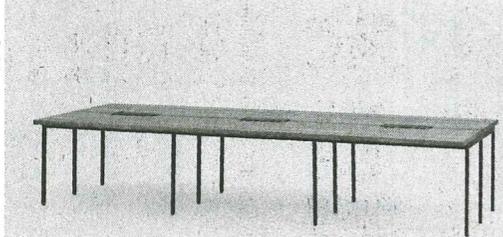
「CIC」3階に整備した

## 室内に癒やし、温もり効果

増山常務は「少しくずつだが、間違いない」と手応えを感じている。米三では富山中央通りにある「D-SQUARE」（ディー・スクエア）の2階にショールームを開設。「仕事のためのオフィス空間」「クリエイティブな創造空間」「多目的に使えるリラックス空間」の3タイプの空間を用意。増山常務は

「サイズ感やスギ板の柔らかな手触りも、ぜひ現地で確かめていただきたい」と話している。今後に向けて「まずは国内で認知されるブランドにした

ワークデスク



シェルフラック

